

●モンゴル

HP フィルターで見る2010年以降のモンゴルの景気循環

GDP の時系列データは、中長期的な趨勢を表すトレンド成分と、繰り返し発生する短期の変動を表す景気循環に切り分けられる。従って、経済活動の景気循環に着目する場合、まずデータからトレンド成分を除去する必要がある。その方法として、1階差分法や確定的トレンド除去等が挙げられるが、1980年代以降、Hodrick and Prescott (1997) が提案したホドリック・プレスコットフィルター（以降 HP フィルター）が、

実用的な方法として普及している。

今回、HP フィルターを用いて、四半期データが得られる2000年以降の実質GDP（季節調整済み）からトレンドと景気循環を抽出する。四半期データを用いる場合、HP フィルターのスムージングパラメーターであるラムダを1600に設定することが目安とされている。データは、2000年から使用したが、図では2010年以降の結果を表示している。

図に実質GDP（2005年価格）、その経済成長トレンド及びトレンド周りの景気循環を表示している。ここでの景気循環はトレンドからの乖離であり、左軸のパーセン

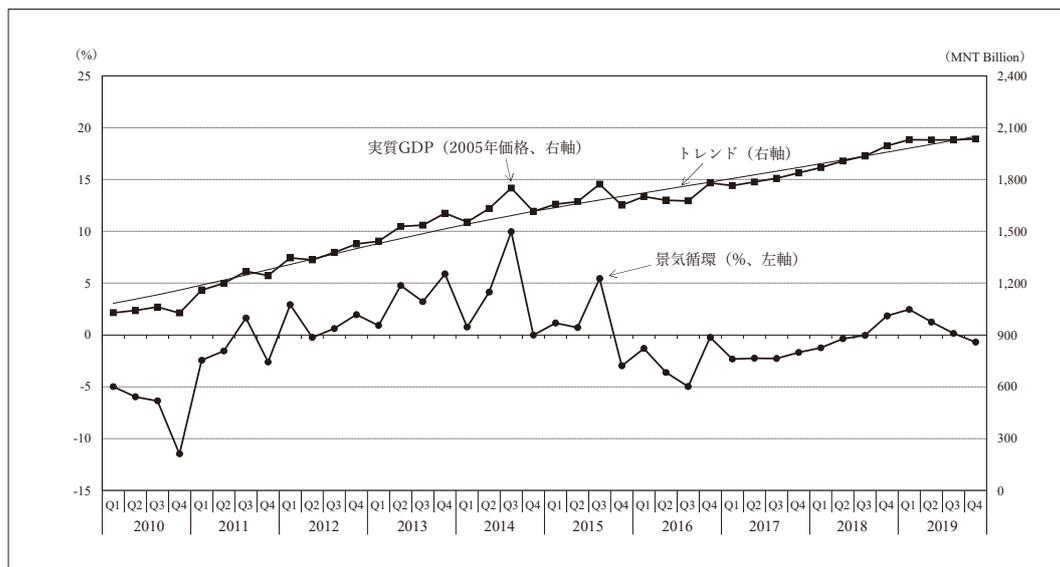
テージで表示される。0の場合、トレンドからの乖離はないと理解する。一般的にトレンドから正の乖離（正の値を取る）がある場合は好景気、負の乖離（負の値を取る）がある場合は不景気となる。図からリーマンショック後のモンゴル経済は不況だったが、2012年から2014年に渡り好景気であり、それ以降不景気に陥っていることがわかる。2018年後半から再び好景気に入っているが、比較的短期間に留まっているようである。

東京大学公共政策大学院博士課程2年

ERINA インターナショナル
ハリオン・ドブチンスレン

<文献>

Hodrick,R.J. and E.C. Prescott (1997). Postwar U.S. Business Cycles: An Empirical Investigation. *Journal of Money, Credit and Banking*, 29(1), 1-16.



(出所)モンゴル統計局のデータに基づき筆者作成。